

下野新聞が、「とちぎ戦後70年」というテーマで戦争体験や感想を連載で報じていた。

今年も8月がやってきた。8月6日には広島に原爆が投下され、9日には長崎に、同じ日のソ連軍の満州侵攻、数えきれないおびただしい死者、そして8月15日玉音放送と日本人にとっては忘れることのできない日々となっている…。

私は昭和15年生まれである。昭和16年12月8日真珠湾攻撃から太平洋戦争へと突入したのであるから、大戦中は幼年期であり、この当時のことは殆ど記憶にはない。

少年時代以降、大人の方々から戦争の話や、映画やテレビ等の映像で激しい戦いの様子や、焦土と化してすべてを失った悲惨な情景、人々の苦しみ、悲しみが、私のわずかな戦争体験と合わさって、記憶となって残されている。

私が小学校に入学したのは昭和22年の4月、終戦直後の時である。昭和20年4月には、沖縄へアメリカ軍が上陸、日本本土への襲撃が激しくなってきた。ここ矢板にも米軍機が飛来するようになり、日中も夜も空襲警報のすさまじいサイレンの音とB29のにぶい音が今でも耳の奥底に聞こえてくる。

母から毎晩、防空頭巾と着物を枕元にたたんで、すぐに逃げられる格好で寝ることを指示されていた。八帖間の電球は、周囲に光が広がらないよう電球の周りが青黒く塗られていて、下の部分のみを薄暗く照らしていた。空襲警報のサイレンが鳴りはじめると、間もなくB29が飛来し、姉と急いで庭の防空壕に逃げこんだ。防空壕の中の布団に身体を小さくしてうずくまり、B29の過ぎ去るのを待った。

わが家のそばには東北本線が走っている。矢板駅近くには当時、秋田木材の大きな工場があったので、米軍機の攻撃目標となって砲撃を受けた。あのB29のにぶい音、時折バリバリとする砲撃の音と恐怖感、防空壕のカビ臭いにおい、今でもはっきりと思いおこすことができる。

食べ物にはなかった。くる日もくる日も腹をすかし、栄養失調のようにやせこけていた。ふすま（小麦の上皮だけを取った赤茶色の粉）のだんご汁、赤ジャガイモ、カボチャ、苗床のサツマ親芋など、食べられるものは何でも食べた。

着るものはうすよくれたカスリの着物、すりへった下駄かぞうり、冬でも足袋などはなかった。

あの頃、学校給食で出された脱脂粉乳は本当においしかった。そして、その粉をなめると何とも言えない甘味があった。また、ときどき、乾アンズやグリーピースなど、これまで食べたこともないものまで配られて、そのうまさは今でも忘れることができない。

洋服や運動靴もくじ引で配給となった。しかし、わずかな数であったので、私は一度もくじに当たったことはなかった。

こんなこともあった。授業中に、前の女の子の頭の毛に、白いシラミが点々と吸いつき、肩から背中にかけてはい出し、時々ポロツとすべりおちて、むくむくはい上るありあさまであった。私も下着の縫い目にシラミがしがみつき、家に帰ると母が熱湯の釜に入れてシラミを退治した。

教室では先生が定期的にDDT（殺虫剤）の白い粉を頭にふりかけたり、噴射器を背中にさしこんで吹き込み、ズボンのすそから白い粉が噴き出すほどであった。

今では考えられないようなことであるが、生きるためにみな必死であった。

あれから70年が経過した。戦後の日本の夏は平和を願う多くの行事とともに過ぎ、それが戦後70年の長い間、毎年のようにくり返されてきた。

70年も経てば戦争の悲惨な記憶も薄れてしまうのだが、それは時が経てば経つほど、日本人が改めて正気を取り戻すための日々なのだと私には思えてくる。

先頃、一人で九州を旅し、鹿児島県の「知覧」を訪れた。「知覧」の町は薩摩半島の山の中にある。

昭和20年4月、沖縄に米軍が上陸すると、陸軍の特別攻撃隊の飛行機が、ここから沖縄に向かって出撃した。米軍の艦隊に飛行機もろとも体当たり攻撃するためである。

知覧博物館の展示品の一つひとつに引きつけられ、激しい感動に心を洗い流される思いであった。祖国の為に一命をささげようとする若き青年の悲壮な決意に心をうたれた。親への思い、そして愛する人への思いと自らの悲壮な決意を綴った手紙や遺品に涙した。

遺品館を訪れた時、窓口の女性職員が「どこからおいでになりましたか」と声を掛けてくれた。「栃木県の矢板市です」と答えると、驚いたように「出口昭さんという方ぞ存知ですか」と言われた。突然のことで驚いたのだが、知覧と出口さんのことを説明して下さり、出口さんの遺品があるとあって案内された。思いもかけぬ驚きであった。同時に九州への旅で、なぜ知覧に行こうと思ったのか…。

今は亡き、兄のことを思い出していた。

矢板市長 遠藤 忠

私（市長）の思いや  
願いなどを市民の皆さんに  
お伝えします。

※タイトルの「比翼の束」とは、  
市民と行政を翼に例え、ふたつを束ねて  
まい進するさまをイメージしています。

